

2008年度 早稲田大学 人間科学部

日本史 解答例

I 古代の史料 <標準>

問1オ 問2イ 問3エ 問4ア 問5ウ 問6ア・オ
問7エ 問8イ 問9ウ 問10イ 問11エ 問12ウ・カ

難問は問4・8。どちらも消去法が使えれば解けるだろうが、そうでないために難問化している。

II 中世の雑題 <やや易>

問1ア 問2エ 問3ウ 問4ア 問5イ 問6オ
問7エ 問8イ 問9ウ 問10イ 問11オ 問12カ

もっとも解きやすい大問であった。難問は問12のみ。といっても文化史をおろそかにしていた人には易しくなかつただろう。実は意外と点差がつく問題だったのでないだろうか。

III 中世・近世の都市 <難>

問1ア 問2イ 問3カ 問4エ・オ 問5ウ・オ 問6イ
問7エ 問8カ 問9カ 問10イ 問11ア 問12エ

江戸時代の細々としたことを、相当正確に覚えていないと正解できない問題が目立つ。しかも「カ(該当するものがない)」を正解としている問題も多く、油断するとこの大問に時間を大きく取られてしまいかねない。

IV 明治・大正時代の雑題 <易>

問1ウ 問2カ 問3エ 問4ア 問5オ 問6イ
問7エ 問8ウ 問9ア 問10オ 問11ウ 問12イ

難問は問9のみ。問12を下線部の「民本主義」に引きずられて「ア(吉野作造)」と答えてしまった人は勇み足であった。設問をよく読もう。受験日本史が用語暗記だけでは解けないことがわかるだろうか。時期と分野の整理が欠かせないのである。

V 古代～現代の自然環境と人間の関わり <やや難>

問1ア 問2オ 問3オ 問4ウ 問5カ 問6エ※ 問7ウ 問8ウ
問9オ 問10カ 問11イ 問12ア 問13エ 問14エ 問15イ 問16イ

※オも不正解とは言い切れない。

早稲田では備えておくべきテーマからの出題であったが、消去法が使えないため難問が目立った。特に難しいのは問4・14。

講評

「もし該当するものがなければ、カをマークせよ」とあるせいで、難易度が非常に高まっている。この形式だと消去法が使えずに時間がかかり、それに足を取られると最後の問題まで解ききれなくなってしまう。実際、大問Ⅲに手こずった人が多かったのではないだろうか。試験中に焦り出すと、簡単な問題でもミスが増えてしまう。入試直前期には、時間配分を気にしながら解く練習をしておくべきだということを痛感させられる問題であった。